

自己評価報告書(最終報告)

報告者

授業実践・カリキュラム開発
コース/川上 綾子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

平成24年度(2012年度)分として、現在、『UDLアプローチの援用により「個に応じた指導」を可能にする授業設計法のモデル化』という研究課題で基盤研究(C)に申請している。米国で近年提唱され始めた「学びのユニバーサルデザイン(Universal Design for Learning: UDL)」のアプローチを基盤として、小中学校等の一斉授業の中で「個に応じた指導」を実現するための授業設計方法論の体系化をめざすものである。3ヶ年計画で、「個に応じた指導」に関する学校現場の実態調査から始め、授業設計に向けた枠組みの提示、UDLアプローチを援用した授業の設計とその評価、授業設計法のモデル化という流れで取り組んでいく予定である。採択されなかった場合は、同様の研究テーマ(一斉授業の中で「個に応じた指導」を実現するための授業設計法)についてアプローチや研究計画を再検討し、平成25年度(2013年度)分として新たに申請する。

2. 点検・評価

今年度、研究代表者として新たに科研費・基盤研究(C)に採択され、『UDLアプローチの援用により「個に応じた指導」を可能にする授業設計法のモデル化』という研究課題に取り組んでいる。その一環として、今年度は「個に応じた指導」について小・中・高校教員を対象とした実態調査を行い、学校現場における教師たちの取り組みと課題について分析した。本研究は3年計画であり、来年度(2013年度)も継続して取り組んでいく。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

専攻やコースとしては、各県教育委員会等への働きかけ、各教員が講師を務める講演会・研修会での広報活動、他大学での説明会の開催などに積極的に取り組んできているところであるが、これまで定員充足には至っていない。そのような状況を踏まえ、今年度私としては、専攻の広報・同窓会担当者でもあることから、専攻修士生の同窓会を組織化し、そのネットワークを利用した広報活動を計画していきたい。また、現職教員が多数を占める旧コースの修了生にも本専攻の取り組みや院生の学修成果を伝え、学校現場等で周知してもらえるよう依頼する。

2. 点検・評価

専攻(教職大学院)の同窓会の設立に際し、広報・同窓会担当者として一連の準備作業を行い、同窓会の発足を実現したのは中間報告にも示した通りである。それ以外に、専攻のパンフレット等の企画・作成も行った。しかし、旧コースの修了生に対する広報活動については十分検討できなかった。2013年度入学者も定員充足には至らなかったため、今後、この点についても早急に検討していきたい。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①教職大学院のコラボレーションオフィスコーディネーターとして、担当である1年次院生の修学指導・学生生活支援等に積極的に取り組む。
- ②教職大学院の施設担当者として、院生の学習環境をより充実させるため、専攻全体で利用する演習室や資料室の一層の整備を進める。
- ③学部学生・院生ともに、研究面・生活面・進路面等の相談にはすすんで応じる。

2. 点検・評価

- ①教職大学院のコラボレーションオフィスコーディネーターとして、担当である1年次院生の修学指導、教務関係行事の企画・運営を行うとともに、院生室等の学習環境整備に努めた。
- ②教職大学院の施設担当者として、古い備品類の廃棄・移動、部屋の整理・清掃等を行い、来年度からのコース及びカリキュラムの再編に伴い必要となる、専攻共通利用の演習室や資料室等の整備を実施した。
- ③研究や人間関係等に関する学生からの相談にすすんで応じた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

これまでの研究成果で未発表のものについて論文にまとめ、学会誌や紀要等に積極的に投稿することによって、成果の公開に努める。また、科学研究費補助金等の学外の研究助成の公募に積極的に申請し、外部資金の調達を図る。

2. 点検・評価

未発表であった研究成果の一部について、本学研究紀要への投稿、学会での発表を行ったが、まだまとめていないデータ等もあり、引き続き成果の公開に努めたい。研究助成への応募については、研究代表者として新たに科研費・基盤研究(C)に採択されたため、今年度は行わなかった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

上記「Ⅱ-1. 教育・学生生活支援」で述べたとおり、教職大学院コラボレーションオフィスコーディネーターとして、担当である1年次院生の修学指導・学生生活支援等に係る企画・運営を行い、専攻内での推進役を務める。また、専攻の施設担当者として院生の学習環境の整備に努めるとともに、広報・同窓会担当者として本専攻修了生の同窓会の組織化、広報活動の推進を図る。

2. 点検・評価

専攻の中では、上記「Ⅰ-2」「Ⅱ-1」でも述べたが、コラボレーションオフィスコーディネーターとしての修学指導・学生生活支援等に係る企画・運営、施設担当者としての学習環境整備作業、広報・同窓会担当者としての専攻同窓会の組織化や広報活動等に取り組んだ。加えて、来年度からのカリキュラム改編に関するワーキンググループのメンバーとして、新カリキュラムの立案・検討を行い、カリキュラム改編作業をすすめた。また、学生総合相談室アドバイザーを務め、その役割を果たした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校の研究発表会、授業研究会等に積極的に参加する。(附属学校)
- ②徳島県立総合大学校運営委員会委員として、同校の円滑な運営に向けサポートする。(社会貢献)

2. 点検・評価

- ①附属学校の研究発表会には、日程の都合が合わず参加できなかった。
- ②徳島県立総合大学校運営委員会委員として、「とくしま学博士」の認定委員を務めるなど、同校の運営をサポートした。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)